KIFA Plaza
鎌ケ谷市国際交流協会広報誌

第 92 号

2018 年（平成 30 年）5 月 20 日
発行：鎌ケ谷市国際交流協会
〒273-0101 鎌ケ谷市富岡 1-1-3
きらり鎌ケ谷市民会館 3 階
TEL：047-442-1860
月・水・土 9：00～16：00
e-mail：main@kifa.gr.jp

KIFA青年ワカタネ親善大使帰国報告

2017 年度 KIFA 設立 30 周年記念事業として公募した結果、青年ワカタネ親善大使に選出された田中遼平さんと和田夏音さんの二人が 10 日間の派遣を終え、3 月 4 日元気に帰国しました。ワカタネの皆さんにとても歓待され充実した日々を過ごしたようです。詳細については下記のお知らせのとおり 7 月 15 日（日）に報告会を予定しています。

田中さんとホストファミリー宅で

ガスマスクヘルメット姿

ワカタネの丘で和田さんとホストファミリー

私にとって初めてのニュージーランド訪問でしたが、ホストファミリーやワカタネの方々の温かいもてなしのおかげで、思い出深い滞在となりました。

日本を旅立ったのは真冬の 2 月でしたが、南半球のニュージーランドは夏。オークランド国際空港に着くと日本から着ていた長袖シャツでは暑く、さっそく半袖に。ニュージーランドは夏の終わりで、青い空が広がり乾いた空気がとても気持ちの良い陽気でした。のちにホストファミリーが「一番心地よい時期」だと教えてくれました。滞在中に 3 月になると、地元の方が「夏が終わってしまうなあ」と少し寂しそうに話してくれました。

ホストファミリーのマルコムさんがトレッキング好きの私のために、近くの林や海岸線を案内してくれました。ワカタネ周辺に残る林は日本と違ってシダ植物が多く、まるで恐竜の時代の原生林。ワカタネの林を抜けると吸い込まれそうな青い海と牧草地が広がっています。トレッキングでその自然を満喫することができました。（田中記）

満席状態の観光船に乗りホェールウオッチングをしながら、ワカタネから 90 分ほどの所にあるホワイトアイランド（火山島）へ行きました。火口近くを歩く時は硫黄の匂いがきつく、防毒マスクを着け、また落石への注意のためヘルメットを被らなければなりませんでしたが、貴重な体験でした。1 時間ほどかけて 3 か所ある火口を巡りました。紺碧の空に白煙がたなびく美しく雄大な世界に圧倒されました。

翌日は市役所の方と、鎌ケ谷市の庭園業組合の多大な協力で造られ、KIFA も寄付を行ったジャパニーズガーデンを訪ねました。庭園は現地の住民にも好評らしく、結婚式に使われた事もあるとの事でした。（和田記）

お知らせ　KIFA 青年ワカタネ親善大使報告会 開催

7 月 15 日（日）午後 2 時よりまなびぃプラザ 研修室 1

「KIFA 青年ワカタネ親善大使派遣報告会」を行います。
自然豊かで人の温かさに満ち溢れているワカタネを、青年親善大使二人の体験談とともにご紹介します。
是非ご参加ください。（参加無料）

世界を知る会「知って楽しいアラビアの世界へ！」

3月 25 日(日)中央公民館において「世界を知る会」が開催されました。何度もアラビアを訪れ、地域情勢に詳しい日本橋トラベラーズクラブ西山徹氏による『知って楽しいアラビアの世界へ』と題して、講演が行われました。

紀元前 10 世紀のシバ王国の「ビルキス女王」、紀元3世紀パルミラ王国の知勇兼備の「ゼノビア」、エジプト最後の女王「クレオパトラ」、イラクの「サダム・フセイン大統領」、リビアの最高指導「カダフィ大佐」、2001 年アメリカ同時多発テロのアル・カイダの首謀者「ウサーマ・ビン・ラディ」――これら6人が「古代文明から現代の混迷まで」、アラビアの世界史とどのように関わってきたのか。砂漠 遺跡 民族・風俗 歴史の4項目に分け、さらに民族対立のイスラム教世界の複雑さなど、映像を交えて興味深く話されました。

現在、シリアにおいては長引く国内対立にロシア、トルコなど外国勢力が介入して悲劇的な状況になっています。混迷の遠因として、英仏露による第一次大戦後のオスマントルコ分割案の秘密協定「サイクス・ピコ協定」だと知りました。

平和の在り方や援助の在り方にも触れられ、アラビアに興味を持ち、イスラムを正しく理解し、彼らの目線を理解することの大切さについても述べられました。

人的交流を広く、そして太くする。国家間の課題が懸念される今、改めて相互理解の大切さを学ぶ講演でした。

外国文化に親しむサロン「ここが変だよ日本人」

2月 25 日(日)まなびぃプラザにおいて『外国文化に親しむサロン』が開催されました。

5カ国のゲストスピーカーを迎え、“ここが変だよ日本人”と題して、外国人が日本で生活してみて「暮らしの中で母国との違和感」を感じていることなど、各国との違いについて学びました。

★ナタリアさん【ロシア】

日本では労働時間が長く、会議も異常に長い。残業が多い事にも驚きました。忙しいフリをしているのかと思える程でした。

また日本人は小顔が美人と言う感覚ですが、ロシアでは小顔の人は頭も小さいので、脳みそが少ないとか心が狭いと見られてしまいます。そして正座が出来ることも不思議です。

★チャイ・コッターさん【ニュージーランド】

ニュージーランド(N.Z.)では、休日の過ごし方はアウトドアが中心です。日本は、とくに都会では家でゲームをしたり、パチンコや買い物をして過ごす、言わばインドアの文化です。N.Z.はとても環境を大切にしています。絶滅危惧種の保護や生態系が変わらないように、また、花粉の移動も無いように気をつけています。N.Z.人は自分の住んでいる地域以外には殆ど行きません。

★與潔さん【中国】

日本の小学校では一年中半袖、短パンの体操服を着せていますが、中国では真冬は絶対に半袖や短パンではなく、暖かい格好で行います。真冬にスカートを履く女性はほとんどいません。

日本では茶碗、箸など自分好みの物を使いますが、中国では誰でも同じ物を使います。中国ではギョーザは主食なので、ライスや麺と一緒には食べません。

★ペーニャ・フリオさん【ペルー】

ペルー人で自分の血液型を知っている人は殆どいません。ペルーでは車庫証明は必要ありません。先輩・後輩の関係も無く誰でも友達になります。

ペルーで一番大切な事は家族、二番は遊びも仕事のうち。ワールドカップの時は病院、警察、会社も皆休んで TV の前。三番は過去は過去、未来は分からない今が一番大事という考え方です。

★尹美善さん【韓国】

日本ではお金とか品物とかをプレゼントすると、何かお返しを送ってきます。韓国ではお返しはしません。日本では結婚しても若いアイドルの追っかけをしたりしますが、韓国では結婚したら自分にお金を使いません。

日本の年配の人は英語や韓国語の勉強をしたりしますが、韓国の年寄りはおしゃべりしたり歌を歌ったりしています。韓国では年長者は知らない人の事でも口を出したりしますが、日本では他人事には無関心なように見えます。

2017 年度子ども英会話スマイリーキッズ閉講式

2018 年 3 月 10 日（土）2017 年度子ども英会話『スマイリーキッズ』の最終授業と閉講式が行われました。我が子の上達ぶりを見たい保護者も大勢参加しました。講師から子どもたち一人一人に終了証が手渡されました。名前を呼ばれた受講生はステージに上がり、マイクを使って、自己紹介します。学年が上がるごとに自己紹介の内容が高度になっていき、将来の夢なども話します。

自己紹介を終えると先生から記念写真の入った終了証が手渡されました。今年度卒業する 6 年生が受講生を代表して、講師に感謝の花束を手渡しました。講師からは、「みなさん 1 年間良く頑張って勉強しました。6 年生はスマイリーキッズの卒業、中学校入学おめでとう。これからも英語の勉強を頑張って続けて下さい。」との言葉が贈られました。

終了式の後、最後の授業はジェスチャーゲームです。絵カードに書かれているものをチームに的確にジェスチャーで伝えます。最後はビートルズの「ハローグッバイ」を保護者に披露して授業を終了しました。

子ども英会話スマイリーキッズ　クリスマス会を楽しむ

12 月 16 日(土)「子ども英会話スマイリーキッズ」ではクリスマス特別授業を行いました。この日の授業は、子ども達の家族も加わり特別授業です。

「Please come in Santa Claus!」 子どもたちがサンタクロースを呼びます。「Hello everyone!」 サンタクロースの衣装で入って来たのは J サンタとパパサンタです。子どもたちの歓声があがります。

子ども達が名前、年齢、学校、学年、趣味などを英語でサンタに自己紹介。自己紹介を終えると、サンタからお菓子のプレゼントをもらいます。授業では、映像を見ながら伝統的なアメリカのクリスマスを英語で聞いたり、6 チームに分かれ、英語ワード当てや間違い探しゲームなどを競いました。

最後は参加者全員で英語の歌の練習です。J 先生の指導で字抜き”SANTA”の歌を歌います。子どもたちの覚えの良さとリズム感に驚かされます。

「We Wish You a Merry Christmas」と「Jingle Bell」を 1 フレーズずつ練習し、全員で歌い特別授業を終了しました。

鎌ヶ谷青年会議所主催「五感で感じる日本文化」に協力

2018 年 3 月 18 日(日)鎌ヶ谷青年会議所主催「五感で感じる日本文化」が開催されました。訪日外国人や外国人市民の増加、グローバル化に伴い、鎌ケ谷に在住する外国人が日本文化を体験しながら、市民と交流を図ることを目的として開催されたものです。

KIFA では青年会議所に協力し、外国人のために多くの浴衣を準備、着付けを担当しました。参加した中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、ウガンダ、スペイン、ベトナムの 7 ヶ国の外国人は、浴衣の着付けを済ませた後、餅つき、太鼓体験、五月人形、折り紙、剣玉、独楽など、思い思いに日本の文化やあそびを楽しみました。

外では餅つきに挑戦。特製の野点傘も用意され、つきたてのお餅を食しながら会話を楽しみ、記念撮影をしていました。

最後は和太鼓の子ども達と太鼓の協演。リズムに合わせて太鼓を叩き、大満足。色々な国の言葉と笑顔いっぱいのイベントでした。

参加した外国人は日本文化体験が初めての人がほとんどでしたが、様々な体験を通じて、青年会議所メンバーをはじめ、イベントに協力した各団体の皆さんとの交流も楽しんでいました。

外国家庭料理講習会「ウズベキスタン料理」

2月18 日(日)南部公民館にて、ウズベキスタン家庭料理講習会が開催されました。講師は日本在住 13 年、日本語など5か国語に堪能なカユモワ・オゾダさんとナジロワさん。

あいにくインフルエンザが猛威を振るう中での開催となり、欠席者が目立ちましたが、20 数名の参加者が楽しく調理と試食パーティを楽しみました。

当日のメニューは、①パロフ(ウズベキスタン風ピラフ)②マスタヴァスープ③アチチュクサラダ④ホルウェタルの 4 品。

第 2 部では、会場を集会室に移して、出来上がったばかりの料理をいただきながら、オゾダさんとナジロワさんにウズベキスタンの言葉や文化のお話を伺いました。

ウズベキスタンの首都はタシケントですが、日本人には、シルクロードの中継地として栄えたサマルカンドのほうがなじみが深いですね。サマルカンドブルーと呼ばれる陶芸が盛んだそうで、たくさんの陶芸家たちが、陶器やモスクのタイルづくりに励んでいます。オゾダさんの家系も陶芸家の一族で、お父さんが焼いたというお皿を持参して見せてくれました。民族衣装「クイナク」も持参、着けて見せてくれました。

オゾダさんはまた、信じられないようなことを言いました。ウズベキスタン人以外、初めて会ったのは日本人で、それまで世界は「ウズベキスタン」だけだと信じていたという。「世界はウズベキスタンだけ」と信じて育ち、初めての異国遭遇が「日本だった」というオゾダさんが、今では5ヵ国語に堪能なマルチリンガル・ママになったのも、さすが東西文明の交差点だったお国育ちですね。

日本はもとより、世界文化の橋渡しに貢献したいと話すオゾダさん。ウズベキスタンの人たちの「文化の架け橋」の役割は、現在も脈々と生きているようです

KIFAにほんご講座

12 ヶ国以上の受講生が日本語を学んでいます。受講生はレベル別の小グループに分かれて学習しています。

JLPT(日本語能力試験)受験を目指している受講生もおり、活気があります。年に 2・3 回の特別学習会（夏祭り・お習字）なども行っています。

日本語講座の受講受け付けは年間を通して行っています。

イベントのお知らせ

第１回　英会話サロン

～部屋を一歩入ったら、そこは英語の世界～

外国人ゲストと気軽に英会話を楽しみましょう。

日時：7 月 1 日（日）

会場：鎌ケ谷市総合福祉保健センター6 階

参加費：会員　500 円　非会員　800 円

交流バスツアー

9 月～10 月に開催予定。開催日決定次第、会員各位にお知らせ致します。

青年ワカタネ親善大使報告会

KIFA 設立 30 周年記念事業として、姉妹都市ニュージーランド・ワカタネに派遣した青年達による帰国報告会。

期日：　7 月 15 日（日）13：30～15：30

会場：　まなびぃプラザ研修室 1

参加無料

編集後記

KIFA 設立 30 周年を記念し、姉妹都市ニュージーランドのワカタネ市へ派遣した青年二人が 10 日間の旅程を終え、元気に帰ってきました。ホームステイをしながら「ワカタネ市役所表敬訪問」「学校訪問」「マオリ文化視察」など、貴重な体験を通じ、交流を深めてきたようです。

7 月に予定している報告会では、約 500 枚に及ぶ画像などを交えて、姉妹都市ワカタネ滞在中に二人が体験してきたことを皆様にお伝えします。海外交流、留学に関心のある方だけでなく、ニュージーランドに行く予定がある方、市の中学生派遣の参加を検討している方にも参考になると思いますので、是非ご参加をお待ちしています。